

校 園 長 名：清 家 豊 記 入 者 名：谷 昌 亮 (R6.3.14)								
項	NO.	育てたい 子供の姿	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	自己 評価 (4点満 点)	取組状況・成果・課題	学校関係者からいただいた評価・意見等	左欄(学校関係者からいただいた評価・意見等)を踏まえての改善策等
心豊かにたくましく生きる 神戸の子どもを育てる	1		神戸の魅力を知り、 将来の神戸を担う 人材の育成	〇神戸を中心とした産学民公の連携を積極的 に推進するなかで、国際的な視野を 広げていくとともに、様々な観点から課題 解決に向けた実践的な方法を学ぶ	2.5	・インターンシップやバスツアーなど、実践的な学習ができている。 ・「神戸ディスカバー」「私の流儀」「課題研究」で実践できている。 ・神戸という土地性を鑑み、外国からの留学生など、異なる言語や文化との交流機会を設けて いきたい。 ・課題研究において、神戸市の活性化をテーマにしたり、台湾との交流を研究をしたりと、実 践的な取組ができたように感じている。	・地域や観光をキーワードとした学びが推進され、学習指導要領の対応に期待の持てる学びである。 ・それぞれ実践して感じたことを生徒間で共有していくことが大事であると思う。 ・バスツアーは今回中止になってしまいましたが、高校生ホテルでも同様に、早い段階から周知させた方が 良いのではと思う。また来年度も 育友会としての研修会として協力したいと思っている。 ・高校生ホテルなど実社会を在学中に体験できることは非常に良い取組だと思う。可能であればそ ういった学習をした生徒の進路や、その 経験が実社会で活かされているかを聞いて見たいと感じた。	・特色ある取組みや課題研究では、担当する教員が統一した指導方針のもと、一層の創意工夫し た取組みに努める。 ・特に体験型の活動は事前の広報に努め、多くの関係者に周知を徹底する。
	2			〇課題研究における成果の提案等を、 PPT等を用いて効果的に発信する能力を 育成する	3.0	・発表の機会は多く確保されている。スライドの工夫などもみられる。 ・内容の濃い、よい発表が多くみられる。 ・改善・向上しているが、専門性が高いがゆえに担当者間の指導力や取組に差が生じてい ることも事実である。	・中学生のICTへの関心が一層強まっているので、専門高校としての強みを生かしてほしい。 ・発信すること発表することによって相手に伝える、伝わることで喜びも増すであろうと思う。 ・発表の場に保護者も参加したかった。	・来年度は3年生もタブレットを持つこともあり、ICT機器を有効に活用した資料収集、集約やまとめ を行い、より効果的な発表に努める。 ・発表会等をより多くの関係者が見れるように検討を行う。
	3	「ひと」を「だから」ととらえ、神戸を愛し、支える「人財」を地域とともに育てる学校	思いやりや礼節を 重んじ、職業人とし ての責任や倫理観 を持って行動できる 人材の育成	〇総合的な学習(探究)の時間をはじめ、 学校全体を通して課題解決型道德教育を 推進する	2.8	・全教員で指導にあたり、モラルジレンマに関わっている。 ・社会の課題解決に向けて生徒もしっかり取り組んでいる。	・世の中が多様化、多角化、多面化している。少子高齢化が進み、世の中の仕組みが変わろうとしている。自分の価値観を広めていくことが 必要で、とても良い取り組みをしている。 ・世の中はいたるところに課題が多い。共通のテーマとしての意見交換がよいと思う。 ・単元の評価規準はどのようにしているのか説明が欲しかった。 ・授業について説明は大変興味深い内容でした。課題を提案する先生方も大変知識が豊富で、生徒自身が考える事を軸にしていたので、問 題解決能力の養成に繋がると感じた。今後も同様の取組を続けて欲しい。	・総合的な探究の時間は、全教員が共通認識に努め、創意工夫を加えたものになるように努める。 ・特にモラルジレンマは社会問題を自分の問題と捉えて考える力を付けるように鋭意精査が必要で ある。 ・多様な進路希望を実現するためにも、職業人モラルについて考え実践していく機会を作る。
	4			〇商業科目の学習を通した商業教育の充 実を図る	3.2	・1年の簿記において、少人数制を再開し、きめ細やかな指導を行うことができた。 ・学力の差があるので、更に丁寧な指導が必要である。	・難易度の高い検定に目を向けがちになるが、下位検定は基礎基本であり、生徒のモチベーションの基となることから、合格でいるようき め細かな指導が求められる。 ・少人数制の指導は有効だと感じる。 ・最初のつまづいた子を救うやり方をもっと検討して欲しい。生徒間で教えあうことも良いかと思う。 ・学力の差、低成績の生徒が落ちこぼれないように、更に丁寧な指導を願う。特に低成績の生徒は自らが分からないことを訴えられない事 が多いので、気付いてあげて欲しいです。 ・素敵な取り組みだと思います。継続していただきたい。 簿記については、1年時に遅れてしまうと2年、3年生時に授業についていけなくなります。簿記に関しては中学までの学習内容と切り離され ていますので、1年次にしっかりと土台を作れば良い成績が取れる事を生徒に理解させる事も重要かと思ひます。	・関係する教員の意識・取組をそろえる。 ・進路指導のより一層の系統化をはかり、全教員が情報共有したうえでより丁寧な指導を心がけ、 一部教員の負担とならないよう体制強化する。 ・多大な時間を費やす検定試験対策には、より効率的で、生徒の理解度に合わせた取組みを検討 する必要がある。 ・今年度より行ったより3年生数学の少人数授業を、習熟度別等、より有効で、きめ細かい指導が展 開されるよう、人事も改善を図ってきたい。
	5			〇授業規律及び規則正しい学校生活を確 立する	2.1	・全教員の足並みをそろえた生徒指導ができていない部分があり、共通理解が可能なルー ルづくりが急務である。 ・生徒は指導の意図が理解できれば素直に改善できる。 ・教員が授業前に教室に行き、チャイムと同時に授業開始ができるようにしている。 ・授業開始前に、服装を正すように促し、挨拶を徹底している。 ・登校時に服装を正すことはできているが、校舎には乱れている生徒が多いことが課題。	・職員の自己評価が低いが、保護者の評価は高いことから、一定の成果が出ているのではないかと。今後も教職員が連携し、共通理解に基 づいた継続的な指導に期待したい。 ・服装の乱れは心の乱れとも言える。時を守り、場を清め、礼を正す。この意味を生徒達と考え、そしてどのように実践していくにか。 ・トラブルの未然防止、学力保障につながると思います。引き続き先生方の前向きな取組みを期待します。	・学校の基本である授業を規律ある姿勢で臨むことを全教員で統一感をもって取り組んでいく。 ・教員全体でルールを共有する機会、生徒に周知する機会をより設ける。 ・保護者との連携と、最低限守らせたい基準を全教員で共有する。 ・ルール改定を図ったが、改めて本校の生徒指導が目指すところを明確にし、令和の時代に相応し い、生徒の自主性伸長を目標とした生徒指導の実行に向けて教員の意思統一を図る。
	6			社会の変化に対応 できる専門知識・技 能や柔軟性をもった 人材の育成	〇少人数授業の実施。「情報処理」は、1 学期はIT、2学期は目標別に分かれて展 開する	3.3	・1年「簿記」「情報処理」では少人数クラスでの授業展開を行い、成果が出てきたところと思 われる。 ・1年時では取り組んでいるが、すべての学年で充実を図りたい。	・多種多様な生徒が増えてきていることで、少人数における手厚い指導は大切である。引き続き取り組んでいただきたい。 ・計画的な取り組みに期待したい。 ・少人数での授業は目が届きやすく良いと思う。 ・カリキュラムの都合もあると思うが、習熟度別のクラス分けであれば尚良いかと思う。
7	〇2年生では、「会計類型」と「情報類型」 を設定して専門性を深める	3.1	・検定に向けても類型別にすることで、取り組みやすくなっている。 ・2年生の開発コースでは、情報処理検定1級2種目、国家試験ITパスポートを目指す取組を している。		・継続して各種検定の合格率向上に取り組んでいただきたい。商業高校の優位性にもつながるので、検定情報はもっと公開すべきである。 ・目標を持って取り組んで欲しい。 ・色々な検定を取得しており驚いた。 ・今後は時代に合わせた検定試験の取得が進めば良いと思う。 ・学年が上がるにつれて資格受験に対するモチベーションが下がる傾向で、次の点をモチベーションアップにつながるのではないかと 思う。 ・簿記や会計を学べば、企業の財務諸表や決算書を理解でき、企業の経営状況を客観的に捉えることができるようになる。 ・この知識・技能を身につければ、人生において大きなメリットとなる。 ・普通の高校や大学では通常学ぶことのない科目である。	・会計が情報のどちらかではなく、両分野の専門性を深めたい生徒が少なからずいることを踏まえた、教育課程の検討が必要である。 ・類型ごとに集会などの行事を実施し、類型のアイデンティティを強化する。		
8		〇3年生では、多様な選択科目を配置し、 進路や興味関心に応じて科目を選択する なかで専門性を深める	3.0	・自ら選んだ科目を勉強できることもあり、生徒の専門性も深まっている。 ・選択科目を学年の担当者中心に丁寧に説明することで、できるだけ希望する科目が選択 できるように配慮した。生徒の関心が高い「スポーツ概論」を新たに開講した。	・大学等に進学後も、授業で不安を抱えることがないよう、確かな学力をつける必要がある。社会人になって、高度な技術や知識を身に付け ていけるよう、高校で主体的に学ぶ意識を身につけさせて欲しい。 ・興味のあることについては、より深く知識を得ることを活かす方法等、積極的な取り組みに期待したい。	・4年制大学への進学も見据えた選択科目の検討を今後も進めていく。 ・大学生との交流により、課題研究の深化や社会性の伸長等、見込めるものも多い。学校間、校種 間連携について学校として検討していく。		
安全・地・域安心で共に楽しく学校を 支えるを築き、	9	①いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に 関する取組(いじめ問題対策委員会)			3.1	・対策委員会が定期的に実情分析することが必要。SCの協力も欠かせない。 ・いじめアンケートを実施することで、状況を可視化することができている。 ・学期に一度の会議を行い、現状の生徒の把握を行った。 ・週1回の指導部会で、生徒の情報共有を行った。	・「いじめ実態把握調査」を実施するなど、いじめを許さない学校づくりが組織的に行われている。また、いじめ防止基本方針も直近では、R5 年4月1日に改定されており、定期的に見直しができおり適切である。 ・いじめ防止のために、いろんな方法で取り組んで欲しい。 ・生徒アンケートで気になるものがあった。	・いじめに関する法律の趣旨の理解を、生徒はもちろんのこと、教職員も早期発見、早期対応が 出来るよう認識を深めていく。 ・生徒支援を軸とした生徒指導を展開する。
	10	②超過勤務時間の削減・効果的な有給休暇の取得			3.0	・感染対策を含め、日常的に速やかな退勤を呼び掛けている。 ・休暇の積極的取得を呼び掛け、取得率も向上している。 ・19:00施設を呼び掛け、概ね達成している。	・非常に多くの取り組みをしており、先生方の負担も大きいと思う。負担軽減、働き方改革を進めていただきたい。 ・効果的な仕事の見直しに向けて取り組んで欲しい。	・特色ある取組みや検定指導また部活動等、教員に対する負担を軽減するよう校内体制の精査と ともに、事業内容の精選を不断に図っていく。
	11	③新型コロナウイルス等の感染症対策に取り組んでいる			3.0	・速やかな情報収集と市教委報告を心がけ、迅速な対応を心がけている。 ・全教室に空気清浄機を設置し、生徒の健康保持に努めている。 ・教職員による学校施設の定期的な抗ウイルス・抗菌剤の塗布作業の実施により、感染予 防への意識の向上を図るとともに、生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるように した。	・新型コロナウイルス等に対する予防策が新しい生活習慣として、生徒たちに定着していくよう進めていただきたい。 ・令和5年5月からコロナは5類移行したとはいえ、健康管理の大切さを実感したと思う。何をするにも健康一番。普段から体調管理に努める ことが大事。 ・安心・安全な学校生活につながる細やかな取組みだと思う。	・生徒及び教員の健康を最優先し、環境整備と感染対策に努める。
	12	④「すぐ-る」の活用、ホームページにおける情報発信			3.5	・HPを毎日更新し、在校生、中学生に向けたリアルタイムな発信をしている。 ・感染症にかかる学級閉鎖や、検定実施についての連絡として日々活用している。	・ホームページ更新の頻度が高く、常に最近の情報が掲載されている。引き続き神港橋の良さを広報してほしい。 ・情報の発信、連絡を密に取ること。すぐ-るの活用を推進して欲しい。 ・HPで部活の様子などよく見ているが、同じ写真、同じ文章を使い回している節があって少し残念でした。 ・HPの更新大変だと思う。中学生等が情報を得る1つの方法ですので、積極的な情報発信を期待します。	・HPは情報収集の重要な窓口であり、更なる充実を図る。 ・中学生や保護者が何を知りたいと考えているのか、定期的なリサーチをもとにさらに充実させてい く。 ・生徒の活動がより広く周知されるよう、各部署に広報担当を配置し、より一層の充実を図る。 ・新学年主任や各部活動顧問に、適切なタイムリーな情報発信を促していく。
	13	⑤登下校時の見守り運動(PTA・青少協など)			2.9	・最寄り駅までの自転車利用に関して、定期的に交通安全指導を行っている。 ・学校付近は、交通量が多く、道幅が狭いため横断歩道等に教員が立ち、見守りを行った。 ・西門(通用門)に、教員が立ち見守りを行った。	・交通安全については、多面的に意識の高揚を図っていただきたい。 ・見守りとともに、交通事故防止の取り組み。それにも増して、挨拶、声掛け運動はどうか。対面方式の一声かけは、コミュニケーション能力 の向上につながります。 ・先生方の見守り、生徒への声掛けなどで、子どもたちは安心して答案できると思う。	・下校時の安全指導、マナー指導を継続して取り組んで行く。 ・学校外の活動は、家庭の協力を得るよう連絡を密に取るように努める。
	14	⑥学校生活のルールや決まり(校則など)について			2.4	・文科省及び市教委からの通知を基に、社会情勢や生徒の実情に相応しいルールへと改訂 作業を進めている。生徒も参画し、意見を集約しながら、令和5年度施行を目指すしている。 ・校則の見直しのため、改訂委員会を設置し見直し作業を行った。 ・生徒会、風紀委員会を中心に校則の見直し会議を行った。	・生徒の校則に対する理解を深め、校則を自分たちのものとして守っていくとする態度を養っていただきたい。 ・生徒も参加し、一緒に考えることが大事であると思う。なぜルールを守らなければいけないのか。なぜルールはあるのか。みんなで考えて 良い方向に導き出すことがいいと思う。 ・禁止としている割に、見て見ぬふりをされているのか、規則を守らない生徒をよくみたので、厳しい罰則を与えてもらってもいいと思う。 ・見直された校則は生徒に正しく伝わっているのか、守らなければならない理由は何なのか理解させて欲しい。 ・また守っていない生徒に、なぜ守らないのかをみんなで共有して欲しい。 ・校則の見直し、大変だと思うが、時代の流れ、世の中の慣習に見合うルール作りが大切かと思う。	・運用に際し、生徒・保護者・教員が、ルール設定の意図や意義を理解し、社会性伸長のために遵 守していく姿勢を構築したい。 ・市内他校の取組みを含め、生徒を交えて新ルールを検討し、今年度より実行してきたが、その ルールの意味や目的を教員と生徒双方が理解し、意識統一したうえでの取組みを一層図っていく。